

施策マネジメントシート(2022年度の振り返り、総括)

作成日 2023 年 6 月 14 日

基本目標	II	豊かな自然と共生するまち	主管課	名称	農林課	
				課長	原澤 真治郎	
施策	16	獣害対策の推進	関係課			 

施策の目的	対象	意図	基本事業名	対象	意図
	町民	鳥獣による被害にあわない。		基本事業	1 鳥獣が出没しにくい環境整備
			2 農林産物被害の軽減	農家	鳥獣による農林産物の被害が軽減される。
			3 人的被害対策の推進	町民	鳥獣による人身被害にあわない。
			4		

施策の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> 地域住民と行政が一体となり、野生鳥獣が出没しにくい環境整備を推進します。 被害関係者と協働による侵入防止柵等の守る対策や、追い払い活動を推進するとともに、捕獲活動を強化し、鳥獣被害の軽減を図ります。 出沒・目撃情報の収集と提供により、事故の未然防止や安全確保に努めます。
---------	---

施策の成果指標	成果指標名	単位	区分	2016年度(H28)	2017年度(H29)	2018年度(H30)	2019年度(R1)	2020年度(R2)	2021年度(R3)	2022年度(R4)
	A	鳥獣による農林産物被害金額	千円	実績値	7,455	7,221	6,454	5,952	12,893	18,871
目標値					7,500	7,000	6,500	6,000	6,000	6,000
B	鳥獣による農林産物被害面積	ha	実績値	9.0	8.4	8.6	7.7	7.6	9.3	4.4
			目標値		9.0	9.0	8.5	8.0	7.5	7.0
C			実績値							
			目標値							
D			実績値							
			目標値							
E			実績値							
			目標値							

指標設定の考え方と実績値の把握方法	A) B) 被害が減少すれば対策の効果が現れているといえるため、成果指標とした。 (野生鳥獣による農作物の被害状況調査により把握)
-------------------	--

目標値設定の考え方	A) B) 農業被害額は2016年で約7,500千円であるが、有害鳥獣の出没目撃数が隔年で増減し、成り行き値では想定できないが、侵入防止柵(電牧柵)の設置支援や追い払い、個体数調整(捕獲)などに取り組むことにより、被害額・被害面積の増加を抑制する。
-----------	--

施策のための目的・役割分担	<p>1. 町民(事業所、地域、団体)の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 未収穫農産物や野菜くず等を農地に放棄しない。 出没した鳥獣の追い払いを行う。 農地の荒廃化を防ぎ、集落に隣接する林野の刈り払いを行うなど、獣が出没しにくい環境を整備する。 <p>2. 行政(町、県、国)の役割</p> <ul style="list-style-type: none"> 獣が出没しにくい環境を整備するための支援を行う。 有害鳥獣の個体数調整を行う。
---------------	--

施策を取り巻く状況	<p>1. 施策を取り巻く状況(対象や法令等)は今後どのように変化するか?</p> <ul style="list-style-type: none"> 鳥獣保護法が改正され、以前より駆除等に取り組みやすくなった。一例として一定の条件のもと捕獲業務を民間事業者へ委託が可能となっている。 県の適正管理計画(シカ、イノシシ、サル、カワウなど)の策定により、捕獲目標頭数が明確に示された。基本的には個体数を減少させ被害額の軽減に努めることであるが、サルについては群れの数を83群から50群(平成15年度水準)としており、広域による取り組みが求められる。 イノシシやシカやクマ、サル等の市街地への出没が確認されており、獣害対策は中山間地域の課題では済まなくなっている。 <p>2. 施策に対して、住民や議会からどんな意見や要望が寄せられているか?</p> <ul style="list-style-type: none"> 農林業で獣害被害に不安を感じるとの意見が多くある(町民アンケート)。 有害鳥獣の駆除を可能な限りしていただきたい(町民アンケート)。 獣害パトロールによる成果が見えにくい(町民アンケート)。 電気柵設置の要望が多くなっている。 捕獲個体の処理施設の設置要望がある(捕獲従事者から)。
-----------	---

施策	16	獣害対策の推進	主管課	名称 農林課
				課長 原澤 真治郎

実績比較		背景・要因	
施策の成果水準の分析と背景・要因の考察	① 時系列比較	<input type="checkbox"/> かなり向上した。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば向上した。 <input type="checkbox"/> ほとんど変わらない。(横ばい状態) <input type="checkbox"/> どちらかといえば低下した。 <input type="checkbox"/> かなり低下した。	<p>被害面積は令和4年度4.4haで、令和3年度から半減している。豚熱の影響と思われるイノシシの減少や、山の実りが豊富だった影響もあり、有害鳥獣の出没件数が減少している。また、電気柵の導入による防除の効果が出ていると思われる。被害額は、令和4年度は10,715千円と減少となっている。</p> <p>令和4年度は侵入防止柵（電牧柵等）を13地区、15.3km設置し（累計約248km）整備している。また、地域での追い払い活動を推進するため、追い払い用煙火を支給して地域ぐるみの取り組み等が行われているが、侵入対策の無い圃場や、追い払いの効果が薄いところでは被害が発生している。</p>
	② 他団体との比較	<input type="checkbox"/> かなり高い水準である。 <input type="checkbox"/> どちらかといえば高い水準である。 <input type="checkbox"/> ほぼ同水準である。 <input checked="" type="checkbox"/> どちらかといえば低い水準である。 <input type="checkbox"/> かなり低い水準である。	<p>①令和4年度の農地面積被害割合は、みなかみ町0.18%、沼田市0.07%、片品村0.28%、川場村0.07%、昭和村0.07%。また、農地1ヘクタールあたりの被害金額は、みなかみ町4,407円、沼田市748円、片品村4,606円、川場村1,663円、昭和村2,652円という結果であった。地形や標高等条件は異なるが、単位面積に換算し比較すると、どちらかと言えば低い水準といえる。</p> <p>※管内各市町村の農地面積は令和4年度群馬県市町村要覧を参照。 みなかみ町2431ha、沼田市4280ha、片品村1059ha、川場村547ha、昭和村2864ha</p>
	③ 目標の達成状況	<input type="checkbox"/> 目標値を大きく上回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少上回った。 <input checked="" type="checkbox"/> ほぼ目標値どおりの成果であった。 <input type="checkbox"/> 目標値を多少下回った。 <input type="checkbox"/> 目標値を大きく下回った。	<p>①被害金額目標値6,000千円に対して実績値10,715千円、被害面積目標値7.5haに対し実績値4.4haとなり、被害面積では目標を達成しているものの、被害額では目標を達成できなかった。これは、被害金額のうち、キロ単価の高い果樹などの被害割合が多くなったため。</p>

基本事業名	成果指標名	単位	区分	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度	2020年度	2021年度	2022年度
				実績値	目標値	実績値	目標値	実績値	目標値	実績値
1 鳥獣が出没しにくい環境整備	A 鳥獣追い払い用火火等の配布数/追い払い煙火受講者数	個/人		4,927/178	3,272/181	3,514/190	3,710/194	5,170/194	4,080/215	5,350/213
	B				5,000/181	5,000/185	5,000/190	5,000/195	5,000/200	5,000/200
2 農林産物被害の軽減	A 侵入防止柵の延長	km		8.7	8.2	4.9	20.5	21.2	23.2	15.3
	B				5.0	5.0	5.0	5.0	5.0	5.0
3 人的被害対策の推進	A 獣による人的被害者数(町内の人/町外の人)	件		0/2	0/1	2/2	0/0	1/1	0/0	0/0
	B				0/0	0/0	0/0	0/0	0/0	0/0
4	A									
	B									

基本事業名	今後の課題	今後の取り組み(案)
1 鳥獣が出没しにくい環境整備	①有害鳥獣誘引の原因となる放任果実等を取り除く必要がある。 ②ニホンジカの爆発的な増加を防ぐため、関係団体と協力して、低密度管理の実現が必要。 ③生活圏への出没を防ぐため、林縁部の刈り払いや森林整備を行い、地域での追い払い活動を推進する必要がある。	①放任果実等の持ち主に撤去等の周知を図る。また、伐採を進めるため経費に対する補助の検討をする。 ②日本自然保護協会、三菱地所、町との三者連携の取り組みの中でシカの低密度管理を実現する。 ③地域の方々による林縁部の刈り払いの実施や、自伐型林業協議会との連携による森林整備を検討する。またGPS装着により情報収集をおこない、地域に情報を共有する。
2 農林産物被害の軽減	①有害鳥獣の捕獲を実際に行う捕獲隊員が少ない。 ②侵入防止柵を少人数で整備しているため、非効率であることから広域的な取り組みが必要である。 ③ニホンザルの個体数管理。 ④捕獲後処理の適正管理。	①有害鳥獣捕獲隊員を確保するため、狩猟免許取得経費、銃所持免許経費の補助を継続していく。 ②侵入防止柵を集落全体を囲うように地域ぐるみで協力できるように推進していく。 ③ニホンザルの行動域の把握の為GPS発信器による調査の拡充を図り、捕獲檻を効果的に設置する。 ④捕獲鳥獣処理施設の検討。
3 人的被害対策の推進	①人的被害は山菜・キノコ採り等において、ツキノワグマの加害ケースが発生しており、被害に遭わないための周知が必要。 ②獣害対策の情報周知。	①登山道等への注意を周知する看板の設置及び町報や回覧による注意喚起を継続的に行う。更に頻繁に出没する個体については積極的に捕獲する。 ②獣害パトロールの活動周知。

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000001	有害鳥獣捕獲奨励事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	7,076,646 円						
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			イノシシ、ニホンジカ、ニホンザル、ハクビシン、アライグマの捕獲及び処分することにより奨励金を交付する。	捕獲奨励金の増額	事業実績							
	基本事業	02	農林産物被害の軽減					奨励金支払件数							
組織名		農林	課	獣害対策		係	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策							
事業期間	継続事業	会計	1	款	6	項	2	目	2	有害鳥獣の捕獲資格者は、捕獲活動を生業としていないため、活動を充実させることは個人の負担が増加する。 住民の理解を得ることはもちろんのこと、行政による支援を充実させる必要がある。		奨励金の増額	令和 3年度	令和 4年度	単位
													183	154	件

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000001	有害鳥獣情報収集・管理事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	3,000,355 円						
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			有害鳥獣の出没及び被害状況の情報を収集し、農林産物等の被害低減に役立てる。また、猿追跡用発信器取付業務委託費用、野猿追跡調査員の選定、指導、委託契約事務。	出没・目撃情報を有効活用する方法の検討	事業実績							
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備					追跡調査員数							
組織名		農林	課	獣害対策		係	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策							
事業期間	継続事業	会計	1	款	6	項	2	目	2	出没情報等収集した情報を農作物被害の低減に役立てる必要がある。		特になし	令和 3年度	令和 4年度	単位
													5	4	人

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000003	鳥獣被害対策実施隊運営事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	2,466,480 円						
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			鳥獣被害防止対策特別措置法による鳥獣被害対策実施隊を編成し、隊員が対象鳥獣の追い払い等を行うことで、猟銃の所持許可更新に必要な講習や狩猟税が免除される。	特になし	事業実績							
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備					ニホンザル捕獲数							
組織名		農林	課	獣害対策		係	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策							
事業期間	継続事業	会計	1	款	6	項	2	目	2	・実施隊員は非常勤公務員であるため、実施隊活動中に捕獲業務を行っても捕獲奨励金を受けられない。		特になし	令和 3年度	令和 4年度	単位
													83	134	頭

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000004	鳥獣被害防止パトロール事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	249,315 円						
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			会計年度職員としてニホンザル捕獲班を雇用して、捕獲オリの設置・見回り・捕獲・処分を実施する他、有害鳥獣の追い払いのほか、イヌネコの糞死体処理、道路パト等を実施する。	地域住民と積極的に関わり、出没情報の収集や被害に遭わないための指導の実施。	事業実績							
	基本事業	01	鳥獣が出没しにくい環境整備					有害鳥獣の捕獲数							
組織名		農林	課	獣害対策		係	② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策							
事業期間	継続事業	会計	1	款	6	項	2	目	2	地域住民や農業者が追い払い活動に参加できる仕組みづくり		引き続き猿檻の管理捕獲は継続しながら、地域の要望等の聴取も行う。	令和 3年度	令和 4年度	単位
													646	732	頭

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000002	困いワナ・捕獲おり貸出事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	576,199 円		
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			困いワナ・捕獲おり等の有害鳥獣の捕獲用具を 購入し必要に応じて貸し出しを行う。	ククリワナを中心に捕獲資材を貸し出し	事業実績			
	基本事業	02	農林産物被害の軽減					② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	貸し出し件数 (ハクビシン檻+イノシシ檻+ククリワナ)	
組織名		農林 課		獣害対策 係		地域の協力、わな免許の取得者を増やす。	捕獲資材の修理、整備	令和 3年度	令和 4年度	単位	
事業期間	継続事業	会計	1 款	6 項	2 目			2	1100	1100	件

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000003	有害鳥獣追い払い事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	2,073,917 円		
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			有害鳥獣の農作物等被害を軽減するため、追い 払いの資材(轟音玉、駆除雷3連発、爆竹等)を購 入し、農業者等追い払いを実施する方に交付す る。	動物駆逐用煙火の新規資格取得及び更新経 費に対して費用を町で負担した。	事業実績			
	基本事業	02	農林産物被害の軽減					② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	資材(轟音玉、駆除雷3連発等)交付 件数	
組織名		農林 課		獣害対策 係		農業者等に積極的に追い払いに協力してもらう必 要がある。	動物駆逐用煙火免許費用の補助を行う。 地域での追い払いに花火等の資材を支給す る。	令和 3年度	令和 4年度	単位	
事業期間	継続事業	会計	1 款	6 項	2 目			2	4080	5350	本個

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000004	猟友会活動事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	3,300,949 円		
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			利根沼田猟友会月夜野支部、水上支部、新治支 部の運営全般に渡る事務を行う。	狩猟者登録に必要な経費の一部を補助した。	事業実績			
	基本事業	02	農林産物被害の軽減					② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	猟友会員数	
組織名		農林 課		獣害対策 係		新規入会者が少ないため、高齢化が進んでい る。	狩猟免許の新規取得経費の補助を行い、有 害鳥獣捕獲隊員の確保する。	令和 3年度	令和 4年度	単位	
事業期間	継続事業	会計	1 款	6 項	2 目			2	92	87	人

令和 5 年 7 月 3 日作成 (令和 年 月 日更新)

事務事業	000005	有害鳥獣侵入防止柵設置等補助事業				① 事務事業の内容	③ 課題解決のため取り組んだ事、その結果	事業費	24,989,000 円		
施策体系	施策	16	獣害対策の推進			有害鳥獣が田畑等に侵入するのを防ぐため電気 柵等の侵入防止柵を設置する費用に対する補助 金の交付。	地域の要望に対応し、設置地区数、延長距離 が大幅に増えた。	事業実績			
	基本事業	02	農林産物被害の軽減					② 事務事業の課題	④ 今後の方針・課題解決策	電気柵設置力所数	
組織名		農林 課		獣害対策 係		電気柵を設置していない田畑等に有害鳥獣が出 没が増えている。	毎年20km程度の設置を計画しているが、金 網柵や段数の多い柵の要望が多くなっている 為、設置距離が短くなる傾向がある。 小さい困いよりも、林縁部や圃場一帯に設置 する方法を検討する。	令和 3年度	令和 4年度	単位	
事業期間	継続事業	会計	1 款	6 項	2 目			2	27	13	カ所